

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

&lt;小規模多機能型居宅介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1492100142
法人名	社会福祉法人 鎌倉静養館
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 材木座あじさいの家
訪問調査日	平成26年3月18日
評価確定日	平成26年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492100142	事業の開始年月日	H24年3月12日	
		指定年月日	H24年3月8日	
法人名	社会福祉法人 鎌倉静養館			
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 材木座あじさいの家			
所在地	( 248-0013 )			
	鎌倉市材木座 2-10-12			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	24名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
自己評価作成日	H26年3月8日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月12日	
			ユニット数	ユニット

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、材木座の閑静な住宅地の中にある、庭園付き和風邸宅を改修したものです。ご利用者の皆様には庭に咲く四季折々の草花を眺めながら、ゆったりとした時を過ごしていただいております。お一人お一人が出来る限り住み慣れた家(地域)で暮らし続けていく事を支える為、柔軟なサービス提供を今後の続け、より地域に溶け込んで地域の社会資源として認知されるよう努めて参ります。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成26年3月18日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①材木座あじさいの家は、社会福祉法人 鎌倉静養館の運営です。鎌倉静養館は1915年、最初はキリスト教の休養施設として設立され、戦後、生活困難な高齢者の為の老人ホームとなり、その後「軽費老人ホーム鎌倉静養館」に発展しました。1965年には「特養鎌倉静養館」を由比ヶ浜に設立以降、デイサービス、居宅介護支援、訪問介護、小規模多機能型居宅介護事業を展開し、鎌倉の高齢福祉を先駆的に担っています。材木座あじさいの家も理念の根幹をキリスト教の精神におき、ケアに努めています。ここはJR鎌倉駅から徒歩15分位の旧鎌倉市街地にあり、古いお屋敷、庭園をそのまま活用し、ゆったりとした時と空間を味わい、四季折々の草花に囲まれ、贅沢さを満喫できる趣のある事業所です。送迎の車がご近所の迷惑にならないよう気遣い、小型車両の採用と、狭い道での譲り合いは必ず道を譲るよう、スタッフに徹底しています。

②利用者に関しては、小規模を知ってもらうことに力を入れています。まずは利用してみて、小規模に合うかどうかを体験してもらうことにしています。始めに小規模の説明を十分にし、利用したいサービスについての概要を話し、24時間連絡が付くことも説明しています。材木座在住の利用者が7割近くで、この対応を進めことで、訪問の回数が倍増に近く増えており、近隣の方は利用方法を充分理解して利用していると思えます。訪問の回数が多いことは、事業所に行ってケアを受けるほどでない方のサポートと云った形も定着して来ているようです。思うようなサービスが受けられない理由で利用を止める方がいないのは、自慢の1つです。

③職員の教育に関しては、「特養鎌倉静養館」で年間教育計画があり、その計画を活用して職員の希望する講座に参加させています。職員も小規模多機能については理解・認識が図られ、OJTにより個々のケースに即した実践教育を展開するようにしています。基本的には特養や訪問に携わっていたメンバー中心ですが、特養出身者にはフットワークが向上し、訪問出身者には事業所での協調が順次定着してきています。離職を少なく、モチベーションを維持することに重点を置いて、今年度の目標を「職員のフットワーク」に置き、「言われたからやる」のではなく「先ず、やってみよう」を合言葉に前向きなケアを進めています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	材木座あじさいの家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画や事業所内会議にて、理念を明らかにし、共有に努めている。	材木座あじさいの家の理念は、キリスト教精神の「隣人愛」であり、理念は廊下に掲示し、それに沿ったケアに努めています。職員の一体感を大切に、事業計画を配布し、事業所内会議を通じて職員に周知・共有に努めています。仕事を楽しくすることにより、自分は勿論、利用者やご家族にも喜んで頂けるよう努めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会の防犯部長活動。 自治会総会への参加。 地域の祭事・行事への参加。 地域の一員として認知されるよう努めている。 ※	東水自治会に加入し、継続して防犯部長を引き受け、総会にも出席して地域との関係に努めています。回覧板も回覧して頂いています。地域の祭事・行事への参加も行ない、近くの五所神社のお祭りでは寄付と参加をしました。ハロウィーンでは近所の保育園の子どもたちの訪問を受け、交流を図っています。また、スタッフ等の紹介によるボランティアの導入や、美容ボランティアの来所など、地域の一員として認知されるよう努めています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小規模多機能の特性を生かした柔軟なサービス提供で、地域での独居生活が困難と思われていた方の生活を支えられている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の定期開催で、報告・話し合いが行われている。当事業所の運営推進会議は、出席率の高い事が特色で、そこで出た多方面からの意見を反映出来ている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回（偶数月第4火曜日）、定期的に開催しています。この運営推進会議は、出席率の高い事が特色で、多方面からの意見を反映するように努め、生かしています。メンバーは鎌倉市職員、自治会関係者（連合自治会、東水自治会）、民生委員（連合・東水防災委員）、地域包括支援センターの方、利用者、ご家族、それに法人及びホーム関係者で構成しています。それぞれに状況報告等を行い、意見を頂いています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とのコミュニケーションは良好と感じている。運営上の悩み・疑問点は担当社へのアドバイスを頂く様にしている。当事業所の実情も正確に報告するよう努めている。	鎌倉市は福祉に熱心な市で、高齢いきいき課などの協力を頂いています。また、介護保険者である鎌倉市とサービス事業者、利用者が協働で運営している鎌倉地域介護支援機構のサロンみちくさにはケアマネとして参加しています。地域包括支援センターは鎌倉静養館でも請け負っており、担当センター共々協力関係にあります。地域のケアマネの集まりにも参加しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間帯のみ。離設の可能性のある御利用者は、ほぼマンツーマン対応をさせていただいている。 ※身体拘束の規定については、職員全体で共有するよう努めている。	身体拘束をしないケアの理解のため、身体拘束の規定について職員全体で共有するよう努めています。母体の法人の身体拘束の研修にも参加しています。玄関の施錠は夜間帯のみ行い、離設の可能性のある利用者には、マンツーマンの対応を心がけています。GPSによる「今どこサーチ」をご家族で利用している方もいます。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内でも研修をしている。 虐待が疑われる状況と各職員が感じた際は、管理者等から御家族へ確認をとるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修機会は持っていないので、今後はその機会を積極的に作っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護度の変更等による利用料の変更時には、十分な説明をし理解を得ている。契約の締結時は、大事なポイントを中心に丁寧に時間をかけ説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃からのコミュニケーションを重視し、サービスに対する気になる点（苦情を含む）は何でも良いからお伝えいただくよう話し、その結果を運営に反映させるよう努めている。	ご家族の意見、要望については、常日頃からのコミュニケーションを重視し、連絡ノートや送迎時などに、具体的に聞くようにしています。また、ケアマネジャーは月1回の自宅訪問を実施し、一般職員と異なる視点でご家族の話を聞くようにしています。サービスに対する気になる点（苦情を含む）は何でも良いからお伝え頂くよう話し、その結果を運営に反映させるよう努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の状況が一番理解出来ているのは、介護職一人一人とと思っているので、運営していく上で、その意見・提案抜きでは考えられない。	定期的に行っている職員会議や朝のミーティング等で随時、意見、提案を聞き、反映させています。面接は常勤職員については、課題を持たせ、自己評価をしてもらった上で年1回定期で実施しています。法人内にキャリアパス制度があり、評価に繋げています。課題を明確にし、達成状況を基に理事長面接も行っています。契約職員やパートについては、契約更改時に面接を行っています。現場の状況が一番理解出来ているのは、介護職一人一人と考え、運営していく上で、その意見・提案を尊重しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が自発的に向上心を持って働けるよう、各条件を整えるよう努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	穂人外の研修参加はまだ不十分だが、法人内研修は、常勤・非常勤共に受ける機会を確保出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は会議等での交流の場があるが、職員にとっては、その機会がほとんどない。実際の交流としては連絡会への参加・施設見学・研修会となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開始前に必要な情報の収集を出来る限り実施。開始直後はケアマネを中心にニーズ把握に丁寧に時間をとるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護上の主訴を傾聴の上で把握し、その解決に事業所がどのように関われるかをわかりやすく説明していく事で、関係性を作る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位の高い課題を解決する為にフォーマル・インフォーマルな資源を活用するよう努めている。区分支給限度内でのサービス・医療保険でのサービスの紹介にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人または御家族との関わりの中での教わる事の楽しさが、「仕事のやりがい」の原点と感じています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えるのに、御家族の支援無しでは困難。御家族との協働の大切さを常か共有出来る様努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から参加していたサークル活動への外出支援。 行きつけの美容院への外出支援。	これまでの馴染みの人や場所との関係を継続しつつ、施設を利用出来るのが小規模多機能の最大のメリットです。以前から参加していたサークル活動への外出を援助したり、史跡巡りが好きな利用者さんには個人的な同行を実施したり、馴染みの美容院との連携で美容院にお連れし、終わったら電話を貰って迎えに行く等のサービスも行っています。童謡の会へ参加したい利用者には参加出来るようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士の関係性に留意し、口頭や記録を通じて職員間での情報共有に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も「何かお困りの事があったらいつでも気軽に御相談下さい」と話している。実際に他の身内。近所の方の相談での来所をいただいている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本位を第一とし、必要に応じて家族の助言や意向を伺うよう努めている。	利用者本位を第一とし、必要に応じて家族の助言や意向を伺うよう努めています。利用開始時のアセスメント時には出来るだけ詳細に聞くようにし、ケアプランに具体化するようにしていますが、必ずしも情報が正しいものばかりではなく、利用を開始以後、言葉などから理解するようにしています。職員は利用者について気付いたことは申し送りノートや支援経過記録に記載し、共有すると共にご家族にもお伝えするように努めています。自分でやりたいこと（例えば調理）は支援するよう、大切に考えています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時のアセスメントや利用後の個別記録の情報を収集し、ケア計画・サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の違いに留意し、事業所の基本スケジュールに無理にあてはめた日常とならぬよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の状態の変化に留意し、随時話し合いを行っている。その結果を本人・家族・事業所で共有できるよう努めている。	個人別計画書及び個人別支援経過記録をベースに本人の状態の変化に留意し、カンファレンスを毎月個人別を実施しています。利用者別の担当者を概ね決めていますが、基本的に全員で介護する方針です。サービスは柔軟に提供する方針で、変更は多いが、出来る限りの対応を心がけています。利用者の変化の様子は、本人・家族・事業所で共有できるよう努めています。中心静脈栄養の利用者の関係で看護との連携も出来ています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンシステムの利用と個別ファイルの活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様なニーズに出来る限り対応している。職員の勤務形態もニーズに合わせた対応となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しへの参加時の支援、ごみ出し、回覧板等の御協力をいただいている。事業所としても地域に認知されるよう努め、情報も収集している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族との相談はこまめに行い、必要時、主治医との連絡調整、受診付き添い、入院時の申し送りを行っている。	自宅の主治医の継続が基本で、受診は基本的に家族対応して頂いています。但し、ケアについて主治医の診断は必要で、利用決定後にホームとして主治医にご挨拶に伺い、通院に同行したりして医療的情報の共有に努めています。本人・家族との相談は密に行い、入院時の申し送りなどを行っています。協力病院は湘南記念病院ですが利用は少ないです。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化は、看護師に報告が集まる。必要時、御家族・医療につなげるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、退院前の情報収集は行っている。入院中も出来る限りお見舞いにかがう事で、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族への説明と同意。主治医の往診がある方には、コール対応の確認をとっている。話し合いの結果、他施設を希望される場合は紹介も行っている。	基本的には看取りは行わない方針で、医師を含めた話し合いの結果、他施設を希望される場合は紹介も行うようにしています。ご家族への説明と同意を交わし、主治医の往診がある方には、コール対応の確認をとっています。基本的には、在宅での看取りを出来る範囲内でお手伝いするなどです。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時のマニュアルは有り、対応方法について記してあるが、定期的な研修(訓練)は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備の周知、避難経路の確認はしている。運営推進会議にて地域への協力依頼をしている。	鎌倉は海に近く、自治会としての避難訓練に、材木座あじさいの家として参加しています。火災の避難訓練は年2回予定しており、消防設備の周知、避難経路の確認等、実施しています。また、運営推進会議でも地域への協力をお願いしています。備蓄は3日分の食料、水、救急箱など、特養と同じレベルで行っており、災害時には同系統の特養、老人ホーム等との相互援助が可能なことも強みの1つです。地域福祉防災情報交換会(鎌倉市社協、市役所、幼・保、知的障害者施設等)に参加し、情報交換しています。名越のやすらぎセンターは津波の避難場所として指定を受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業所では、ご利用者への言葉遣いに関し、職員同士で注意しあえる環境作りに努めている。	人格の尊重とプライバシーの確保最優先のケアに努めています。親しい関係を築きつつも、人格を尊重した言葉遣いを心掛け、特に入浴やトイレの介助の時にはプライバシーに配慮して対応しています。職員は、人格の尊重、プライバシー等についての法人研修会等で研鑽を図り、利用者への言葉遣いについても、職員同士で注意しあえる環境作りに努めています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い・希望を表しやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のメニューに無理に合わせていただく事はしていない。庭や近所への外出を希望される御利用者には出来る限り対応させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人が着たい物を着て頂いている。月に1回の美容師によるカットの際は、ヘアカラーも利用いただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ・テーブル拭き・盛り付け等の調理に関わる作業を共に実施している。味の好みについては出来る範囲ではあるが、個別に対応している。	食材はレシピ付の食材を利用し、お米は独自に仕入れられています。食事の下ごしらえ・テーブル拭き・盛り付け等の調理に関わる作業を利用者と一緒に行っています。味の好みについては、出来る範囲内で個別対応に努めるようにしています。外食も行事費を活用しながら適宜行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を参考に1日の水分・食事摂取量の確認をし対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシが難しい方は、口腔ケア用のティッシュ・ガーゼを使用する等工夫している。必要時にかかりつけの歯科又は歯科衛生士との連携もとっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿測を実施し、尿量等に見合った適切なオムツの選択、排泄パターンの把握による適切なトイレ介助を出来るよう努めている。	立位が可能な利用者にはトイレで排泄する（量と回数）よう支援し、自立支援をサポートしています。尿測を実施し、尿量等に見合った適切なオムツ（種類を決め固定するようにしている）の選択、排泄パターンの把握による適切なトイレ介助を出来るよう努めています。必要な場合には主治医に報告しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の適切な摂取。個別においては果物・散歩・マッサージ・Dr指示の下剤調整で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望・タイミングで入浴の日時を原則としては決めているが、気分が乗らない時は代替えている。	人数に限りがある（1日MAX6名程度）ので基本的に曜日は決めています。一人一人の希望・タイミングでの変更もフレキシブルに対応しています。ご本人が気分が乗らない時は代替えするようにしています。設立時にリフト採用を検討した経緯がありましたが、利用者が入浴に要する力を使わず浴槽に入れることや、職員も体力の温存が出来ること等、採用したことで高評を得ています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御希望時、又は伺いにより無理なく休んで頂ける様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事箋がある場合はコピーし個別ファイルに保管している。変更があった場合はその内容を記録し、周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今、何がしたいか？興味を持っている事は何か？を把握するよう努めている。生活歴を頼った過去のニーズにとらわれすぎないようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	史跡巡りや買い物・散歩・ドライブ等、戸外での活動に努めている。	状況に応じて、史跡巡りや買い物・散歩・ドライブ等、戸外での活動に努めています。散歩及び外気浴では、事業所のトータル400坪ある四季折々の草花が咲く芝生の庭に出て、ローンの上を歩いたり、近くの道（狭く、車の心配は少ない）を歩いたり、一緒にお買い物に行ったり、鎌倉の里山を楽しんだりしています。職員1人で2人の利用者との対応でミニ外出も行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の所持。支払いは自身で行っていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	眼の不自由な御利用者が、手紙を出したいと希望されたので代筆した。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・廊下の照明の暗さ、館内清掃が十分に行き届いていない日がある。 ・厳寒期・酷暑の時期の室温対策が課題。	共用空間は大きな古民家であるため、沢山の部屋があり、事業所は2階建ての1階部分を活用し、2つのリビング（1つはダイニング専用）、畳の回廊（幅が1間1.8m、長さは6間10.8m近くある）があり、8畳の和室の1つは2人分の宿泊に使用可能です。日中は休憩室に使用し、もう1つの和室は地域の会議等にも貸し出せるスペースとなっています。リビング2つの内、リビング専用の1つは作り付けの立派な飾り家具があり、高級感溢れるスペースです。今後はこれらのスペースの有効活用が課題と思われませんが、部屋からは四季折々の花が咲く広い庭を眺められ、庭にパラソルの付いたテーブルとイスが設置され、気候の良い日はティータイム等を行ない、利用者と職員とで談話をしながら優雅な一時を提供しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居間・和室・居室を各々の希望によって使い分けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常を過ごす上での必要なものは持参いただいて楽しめるようにしている。	大きな荷物や沢山の道具は預かることはありませんが、日常を過ごす上での必要なものは最小限持参して頂き、楽しんでもらえるように支援しています。利用者は、ラジオ、本などを持参しています。掃除は毎日行っていますが、特に日曜日は利用者が少ない日なので重点的に実施するようにし、快適な環境を整備しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の出入りの場所も、お一人お一人の身体状況で使い分けている。古民家を改修した事業所なので、微妙な段差等のリスクを十分理解した上で必要な介助を行うよう努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

材木座あじさいの家

作成日

平成26年3月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	法人外での研修機会を持つ	職員一人一人が自己のスキルを上げる為に積極的に研修参加の意志を表明できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務表の調整</li> <li>・研修の紹介</li> <li>・計画的な研修計画の作成</li> </ul>	1年
2	34	急変や事故発生時の定期的な訓練（研修）	職員一人一人が緊急時の対応を理解し実践できる	種々の緊急時における対応を定期的な研修にて再確認していく	1年
3	52	共用空間における環境整備	事業所の環境を整備し、御利用者が居心地よく過ごしていただけるようにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な清掃</li> <li>・備品、設備の定期的な見直し</li> </ul>	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。